

長畝ふるさと通信

【2018年1月号】

■ 氷点下列島



1月後半、日本列島を襲った最強寒波は佐渡でも猛威を振るっています。積雪はそれほど多くありませんが、とにかく寒い。これまでに経験したことがない氷点下の日が続き、各地で水道管が破裂し、市役所には自衛隊の給水車が出動する事態となっています。お風呂のボイラーやトイレの水管が凍ってしま

い、使えない日々が続きました。まるで地震の被災地みたい…。首都圏では交通網がマヒし、帰宅難民まで出たとか…「あの程度の積雪ならトキも歩き回れるのに」と首都の混乱ぶりを内心笑っていましたが、笑っている場合ではなくなりました。全国ニュースで佐渡市長の「復旧のメドがたちません」発言が出て、皆さんからご心配のお電話をたくさん頂きました。ありがとうございます。

野菜が高騰し、普段野菜を食べない輩たちがヤーヤーと騒ぎ立てているようで、いつまで混乱が続くやら…平昌五輪どころではないかも…それにしてもこの極寒の中、トキたちはどうしているのだろうか…厳しい冬となりました。

右はトキの力強い足跡、色んな意味で見習いたい…

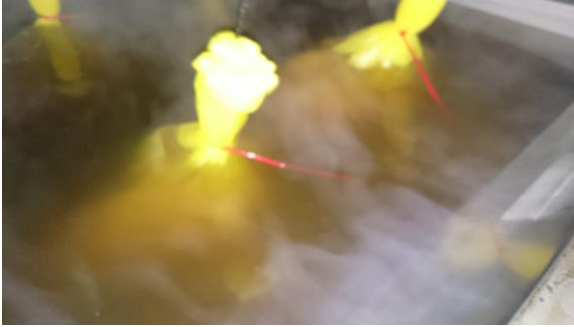


災害派遣要請で新潟から来た自衛隊の給水車両です。ボクの記憶では佐渡でこれだけ一斉に水道管が破裂したことはありません。雪は積もっても、連日氷点下になることはなかったからです。最近全国で多発する自然災害（地震や水害、火山の噴火に至るまで…）は地域住民に甚大な被害を与えていますが、そ

の復旧に尽力する自衛隊の力は計り知れません。憲法と照らしてどうこう言われていますが、国民のためになくてはならない組織であることは間違いありません。感謝、感謝です。

■ 温湯消毒作業にも影響が...

1月22日から種もみの「温湯消毒」作業が始まりました。作業施設は積雪量が多いため、今期は毎朝「除雪作業」をしてから仕事に取り掛からなくてはなりません。これが結構キツイんです。



1日、4kgに計量した種もみを1,500袋・6トンづつ処理していくわけですが、朝一番に前日処理した種もみを各農家に配達しやすいように4kg×5袋づつ袋詰めしなければなりません。これが腰に負担がかかる作業で、一番厄介な仕事なのですが、それにもまして雪かき作業が加わると...1日長い...

● 種もみを野球選手に例えると...

種もみ様は60度の温泉に肩までゆっくりと浸かってキャンイン。これから秋の収穫までの長いペナントレースに備えています。3月は塩水選でオープン戦、4月の播種が開幕戦。5月の連休あたりで首位が抜け出し、8月出穂がオールスター戦。そして秋の収穫クライマックス、日本シリーズへと...野球よりワクワクする。



■ 50年続いたコメ制度の大きな転換期を迎えて

今年から国によるコメの「生産調整」が廃止になりました。コメの集荷団体(JAなど)が独自に販売計画を立て、それに合わせたコメ生産目標を設定して農家と契約するのです。生産調整のタガはずれたのでコメを売る自信のある生産者は作付面積を拡大するでしょうから、全体的には過剰生産となり価格は下落していくことでしょう。高いお米は売れないと業務用米の需要は更に伸び、多収穫米の生産によって化学肥料や農薬が多投され、また環境破壊が始まるかもしれません。国の「水田フル活用」政策で飼料用米に多額の補助金が投入されていますが、いつまで続けられることやら...。そんな中、わがJA佐渡は新潟県が推進する「業務用米」の生産に反旗を翻し、主食用米としての「佐渡米」生産を拡大させていく方針を打ち出してくれました。生産調整面積も昨年より3%程度減少して、より多くのお米が作れるようになりました。これもひとえに皆さんが佐渡米を支え続けてくれているお陰です。これからもこの方針にブレることなく、トキも一緒に棲める豊かな環境を守りながら、美味しいお米を作っていきたいと思えます。これからも応援してください。

真っ白な田んぼから真っ白な心で...

